

平成 27 年度第 5 回目

平成 28 年 1 月 16 日（土）午前 10：30～11：40

議題①活動報告・事故報告

議題②海外研修報告

議題①《活動報告》11 月～12 月

- 避難訓練 11/14 さくら棟 夜間・火災想定 通報訓練も
- 園芸療法 11 月 花と野菜の苗の植え付け
12 月 写真で振り返り
- 特別支援学校 3 年生実習受け入れ 1 名 12/7-11
- しめ縄作り見学とミニしめ飾り作り 12/22
- クリスマス会 各棟 12/21-23
- 餅つき・そば打ちと家族会 12/27

《職員研修》

- 11/5 職員交流研修（よかど会）GH てらやまから 1 名
- 11/16 身体拘束廃止に関する勉強会
- 11/18 腰痛予防講習（1 名参加）
- 12/2 在宅介護・介護事業者向け研修会（2 名参加）
- 12/18 高齢者虐待防止に関する勉強会

《事故報告》11 月 16 日～28 年 1 月 15 日

ヒヤリハット 13 件／事故 0 件

内訳…滑落 3 件／薬関連 2 件／転倒不安 1 件／軽度の転倒 1 件／皮むけ 2 件／内出血 1 件／
内出血 1 件／指挟み 1 件／異食 1 件／その他 1 件

課題と対策

*薬が衣類等から後で出て来るといった服薬漏れがあった。口に入れる、飲み込むまでの見守りが徹底できていないと考えられ、注意する。

*車いす操作でのミスなど、職員の異動時期に起こっているため手技の確認を十分にして繰り返されないようにする。

*皮下出血や皮むけが発見され、原因が特定できない場合がある。虐待等の疑いにつながらないよう、医療との連携や家族への報告を速やかに行う。

議題②海外研修見聞録紹介

スウェーデンでの見聞録紹介

～公益財団法人 社会福祉振興・試験センター 介護福祉士海外研修・調査 派遣より

医療法人明輝会 グループホームよしの村 宮口 由記

1. 研修参加の経緯

介護福祉士会会報に募集掲載があり、社会福祉振興・試験センターのホームページから募集要項を入手。

法人より推薦と応募の許可をもらい応募。小論文（応募の動機および研修後の希望）を添付。

書類審査の結果が6月に通知され、7月に結団式・オリエンテーションがあり、参加メンバーと顔合わせがあった。

2. 研修概要

平成 27 年

8月29日 10:30 成田出発，機内泊オランダで乗り継ぎ，
スウェーデン ヨーテボリへ。

8月30日 ヨーテボリ市内視察後クングスバッカ市へ。

8月31日 クングスバッカ市シグネスヒュス高齢者特別住宅にて研修開始。

① 講義とディスカッション 2 日間；高齢者介護を中心に据えて関係する法制度，機関，重点施策，認知症の捉え方，緩和ケアへの取り組み・理念など。

～ *現地在住日本人通訳を介してスウェーデン人講師より

9月4日 ②現場研修 3 日間；2 日間 高齢者特別住宅内のユニットにて。

担当スタッフについて早出（7:00-16:00），遅出（13:00-21:30）を実習。

1 日間 在宅部門にて担当スタッフに同行し，

ホームヘルプサービス利用者宅を訪問。

*担当スタッフと1対1で。会話は主に英語。利用者には片言のスウェーデン語での会話を試みる。

9月5日 自主研修日。

9月6日 デンマーク コペンハーゲン市内視察。

9月7日 講義と研修のまとめ。修了証授与。お礼のレセプションを主催。

9月8日 帰りの経由地パリへ移動。

9月9日 パリ市内視察。

9月10日 パリ出発，機内泊。

9月11日 8:40 成田到着. 解散.

3. 研修中に感じたこと・気づいたこと

〈ハード面〉

- ・部屋の造りや過ごし方がゆったりとした印象を受けた.
- ・照明は落としめで使い、自然光を大切にしているようだった. ローソク文化なのでそういった明るさに馴染んでいるのだろうと思われた.
- ・腰に負担をかけないように、吊上げ式リフトやスライディングシートを日常的に使用する環境が整えられていた.

〈個別性〉

- ・居室のしつらえや装いに個人の好みが見られていた. また、身だしなみが整っていた.
- ・食事の内容は日本食ほどのこだわりは感じられなかったが、度数の低いビールなどアルコールも楽しめるといった、食の嗜好の尊重が見られた.

〈習慣の違い〉

- ・就寝着の下を着用せずオムツだけの方が多く驚いた.
- ・入浴はシャワー設備のみで軽く流す程度. 日本人には物足りない.

〈支援環境〉

- ・スタッフが明るく生き生きと働いている印象. 精神的なゆとり.
- ・本人主体、本人意思尊重は当たり前として支援側に浸透している.
- ・スタッフの基本資格は日本での准看護師にあたる. 医療的ケアがスムーズに行える.
- ・衛生管理の徹底. 使い捨てのグローブ、エプロン、スモッグ、シューズカバーが用意され、浴室・トイレの消毒は使用後速やかに消毒される.
- ・在宅サービスが利用者本位で組み立てられる制度.
- ・薬局に自分が行けない場合はヘルパーが受け取りに行き、個人宅への配達は無いとのこと. 日本の方が便宜を図られている.

〈地域との関係〉

- ・特別住宅が地域の“ミーティングポイント”になっており、レストランやダイニングルームを誰でも利用できる. 独居の方の居場所や食事提供が可能となっているのは理想的.
- ・後見制度が浸透し活用されている印象. (認知症の方にはゴードマン(後見人)がつく. また身近にコンタクトパーソンの存在.)

〈共通点〉

- ・就寝前のくつろぎや不穏状態など、自分たちのホームと同じ雰囲気だと思った.
- ・アクティビティは曜日ごとに計画しており、特別住宅を訪問して行われる礼拝などはボランティアのサポートがあり助かっている様子. 介護スタッフが積極的に実施するには至っていないようだった.

以上

出席者；地域包括支援センター,地域代表,家族代表,民生委員,事業所代表等 計7名